

PROGRAM

10月14日(金)

12:30 受付

13:30 開会式

14:00 基調講演「幸せになる生き方、暮らし方ー温泉と養老訓」
養老孟司(東京大学名誉教授)

15:00 第一部 日本温泉首長サミット会議
「市民の元気とふるさと創生」

ファシリテーター 合田 純人(NPO法人健康と温泉フォーラム常任理事)

プレゼンテーター 全国温泉地自治体首長
仙北市(秋田県)、阿賀野市(新潟県)、倉吉市(鳥取県)、
菊池市(熊本県)、北杜市(山梨県)

16:00 第二部 市民フォーラム「温泉と健康増進」

コーディネーター 五味 愛美(五味五感企画主宰)

プレゼンテーター 小山 芳久(一社)護持の里たまゆら代表理事)
中田 薫(中田医院中国医学研究所院長)
八巻 苗美(増富温泉女将の会)

16:45 温泉宿泊券他抽選会

18:30 交流レセプション(みずがき湖ビジターセンター)

10月15日(土)

6:00 散歩と朝湯会

9:00 各宿舎で朝食後 自然療養体験

11:30 昼食(瑞牆の森で療養弁当(中田ドクター監修))

13:00 地域活性化フォーラム「温泉地活性化と中間山村の再生」

プレゼンテーター 中島 尚子(環境省自然環境局温泉地保護利用推進室長)
上口 昌徳(山中温泉観光協会会長)
坂本 誠(NPO法人ローカル・グランドデザイン理事、農学博士)

総括講演「ラジウム温泉郷と中医の連携による健康づくり」

講師 中田 薫(中田医院中国医学研究所院長)

14:45 記念講演「地球といのちのためにー自然(JI-NEN)とONSEN」

講師:野中 ともよ(NPO法人ガイア・イニシアティブ代表)

18:30 懇親会 みずがき山リーゼンヒュッテ 泊

10月16日(日)

6:30 自然プログラム体験(リーゼンヒュッテ自然体験コース)

9:00 ワークショップ「地域資源連携による温泉地活性化への取り組み」
参加温泉地自治体、関連団体、企業、有識者他

11:00 閉会 宿舎発

11:30 木暮祭(日本百名山創始者と金峰山麓の金平峠で昼食「おほうとう」)
(日本山岳会、山梨県山岳連盟、増富ラジウム峡観光協会共催)

12:00 韮崎駅へ(送迎専用バス)

特定非営利活動法人 健康と温泉フォーラム
NPO 法人健康と温泉フォーラムは、医療・環境・施設等、温泉保養地に関わるあらゆる専門家によって 1986 年に設立された非営利団体です。
その活動は、温泉の健康利用促進の啓蒙・普及活動はもとより、心身ともに健康で幸福な生活 (Well-being) をおくるための温泉保養地づくりに必要な「環境・施設・プログラムづくり」に関する様々な国内外の情報の提供やコンサルテーション業務を通じて健康で活力ある社会の構築に貢献することを目的として活動しています。



The Forum on Thermalism in Japan

健康と温泉フォーラム2016 in北杜市 地域資源の活用で 市民の元気とふるさと創生

ラジウム・ラドン温泉を利用した健康日本推進連絡会議

2016年10月14日(金) 15日(土) 16日(日)
須玉町農村総合交流ターミナル「ふれあい館」
増富ラジウム温泉峡施設

主催/
山梨県北杜市 増富ラジウム温泉峡観光協会
特定非営利活動法人健康と温泉フォーラム

CONTENTS

1.主催者挨拶	三友 紀男（NPO法人健康と温泉フォーラム会長）.....	1
2.歓迎挨拶	後藤 斎（山梨県知事）	
3.基調講演	「幸せになる生き方、暮らし方ー温泉と養老訓」 養老 孟司（東京大学名誉教授） 2
4.記念講演	「地球といのちのためにー自然(JI-NEN)とONSEN」 野中 ともよ(NPO法人ガイア・イニシアティブ代表)	
5.第一部 日本温泉首長サミット会議「市民の元気とふるさと創生」		
ファシリテーター	合田 純人（NPO法人健康と温泉フォーラム常任理事）	
プレゼンター	白倉 政司（山梨県 北杜市長） 門脇 光浩（秋田県 仙北市長） 田中 清善（新潟県 阿賀野市長） 石田 耕太郎（鳥取県 倉吉市長） 江頭 実（熊本県 菊池市長） 3
6.第二部 市民フォーラム「温泉と健康増進」		
コーディネーター	五味 愛美(五味五感企画主宰) 8
プレゼンター	小山 芳久(一社 護持の里たまゆら代表理事) 中田 薫(中田医院中国医学研究所院長) 八巻 苗美(増富温泉女将の会)	
7.地域活性化フォーラム「温泉地活性化と中間山村の再生」	13
プレゼンター	中島 尚子(環境省自然環境局温泉地保護利用推進室長) 上口 昌徳(山中温泉観光協会会長) 坂本 誠(NPO法人ローカル・グランドデザイン理事)	
8.ワークショップ「地域資源連携による温泉地活性化への取り組み」	玉川温泉 五頭温泉郷 関金温泉 菊池温泉18
9.資料		
「健康づくり・介護予防における温泉の利活用に関する研究報告(概要)」	原田 啓一郎(駒沢大学法学部教授)25

■後援 環境省、厚生労働省、観光庁、全国市長会、全国町村会、山梨県、地域活性学会、
(一財)地域活性化センター、(一財)日本健康開発財団、(一社)日本温泉気候物理医学会、温泉療法医会、
NPO日本スパ振興協会、山梨日日新聞社(YBSグループ)、NHK甲府放送局、山梨放送、テレビ山梨、
(一社)北杜市観光協会、(一社)ハヶ岳ツーリズムマネジメント



三友 紀男
NPO法人
健康と温泉フォーラム会長
みとも としお

ラジウム・ラドン温泉を利用した
健康日本推進連絡会議委員長
仙台社会保険病院名誉院長
温泉療法専門医

主催者挨拶

昨年秋、紅葉真っ盛りの秋田県仙北市での開催に続き、本年も紅葉が始まった瑞牆山やハヶ岳など霊峰の麓、あぜ道では曼珠沙華が真っ赤に咲き誇っています、ここ山梨県北杜市と増富ラジウム峡で健康と温泉フォーラム2016 in 北杜市を開催いたします。本年は昨年と同様に、ラジウム・ラドン温泉広域連携会議の温泉地に加え、温泉を健康づくりに積極的に活用されています、日本の名湯百選の認定温泉地の熊本県菊池市や長野県、岡山県、石川県、北海道など多くの温泉関係者のご参加をいただき、本日から3日間にわたって開催いたします。ご承知の通り、我が国は、国家成長戦略として、一億総活躍や地方創生事業を重要課題と位置づけ、社会構造の変革をはじめ、様々な取り組みを実行しようとしています。そのような背景には社会的潮流として、多様な考え方を生かし、自然や循環する社会のなかで、地域固有の資源を地域再生・活性化に求め、さらに、その活用において、同じ資源を持つ地域の連携によって、国民の安心・安全で健康な生活を担保しようとした、まさに私達が取り組んできた温泉広域連携事業の一つの社会的成果ではなかったかと自負しております。

昨年6月には、温泉療養の医療費控除をより普及するため、温泉利用型健康増進施設の認可条件緩和を、厚生労働大臣に直接陳情いたし、本年4月よりその緩和を実現することが出来ました。ご支援いただきました多くの関係者の皆様に改めて御礼申し上げます。フォーラムでは、官民が一体となって取り組む地域主体の政策形成のありかたなどもこれからより深く、広く、高い目標を掲げ、踏み込んで論議し、合わせて広域の連携をより確実なものとして展開して行くために、連携自治体の首長によるサミット会議だけでなく、共通の課題に向けた実務者会議を定期的に開催し、社会的温泉活用の推進、療養・保養の交流人口の増大を期した、医療費控除のさらなる推進、増大するグローバル化への対応、そしてその政策推進ための財源として、今や名目として形骸化された入湯税の戦略的活用の検証など全国の3000を超える温泉地を先進する具体的な行動を計画しています。

最後になりましたが、本フォーラムの開催にあたり、ラジウム・ラドン温泉広域連携温泉地関係者、日本の名湯百選®関係者そして、特に開催地であります山梨県北杜市や地元協会から多大なご尽力を賜りました。関係各位に深く敬意を表しまして主催者のご挨拶といたします。

歓迎挨拶

「健康と温泉フォーラム2016 in 北杜市」が開催されますことを心からお祝い申し上げますとともに、全国からお集まりの皆様を心から歓迎申し上げます。
世界文化遺産である富士山やユネスコエコパークに登録された南アルプスなど、美しい自然に囲まれた山梨県は、県土の78%を森林がしめる緑豊かな地であり、山々が育む清らかな水を蓄える「天然の水がめ」でもあります。そして水は地中の深いところで様々なミネラルを取り込み、暖かな温泉となって県内各地にわき出ております。

本フォーラムの開催地である北杜市には、世界有数のラジウム・ラドン含有量を誇る国民保養温泉地「増富温泉」をはじめとする多くの温泉があり、秩父多摩甲斐国立公園、南アルプス国立公園などの素晴らしい山岳景観を愛でながら、心身ともにリラックスしてお湯につかることができる、健康と温泉を語るにふさわしい土地であります。特に、秋の気配を感じさせるこの季節、名水百選「金峰山・瑞牆山源流」にある増富温泉では、カラマツ・モミジ・ナラ・シラカバなどの紅葉が映える溪谷美を存分にお楽しみいただけます。

山梨県には数多くの日本一があります。ここ北杜市も、日照時間やミネラルウォーター生産量、国蝶オオムラサキの生息数などで日本一を誇っております。豊富な水と太陽の恵みを受けた「食」も北杜の地の魅力の一つで、優れた食味で知られる梨北米や花豆、浅尾大根などの農産物、鮮やかな赤身が自慢の甲斐サーモンレッド、さらに名水が醸す日本酒やウィスキーなど、食の魅力を心ゆくまで堪能ください。

結びに、開催にあたって多大なご尽力をいただきました関係者の皆様に敬意を表するとともに、ご参加の皆様のご健勝を祈念し、あいさついたします。



後藤 斎
山梨県知事

ごとう ひとし

昭和32年山梨県甲府生まれ。
東北大学経済学部卒業後、
農林水産省、衆議院議員を経て
平成27年より山梨県知事

基調講演

「幸せになる生き方、暮らし方ー温泉と養老訓」10月14日(金) 14:00



養老 孟司
ようろう たけし
東京大学名誉教授

1937年 鎌倉市に生まれる
1962年 東京大学医学部卒業
一年のインターンを経て、解剖学教室に入る
以後解剖学を専攻
1967年 医学博士号取得
1981年 東京大学医学部教授に就任
東京大学総合資料館長、東京大学出版会理事長を兼任
1995年 東京大学を退官
1996年 北里大学教授に就任(大学院医療人間科学)
1998年 東京大学名誉教授
2003年 北里大学を退職
『バカの壁』(新潮社)で毎日出版文化賞を受賞
2006年 京都国際マンガミュージアム館長就任
2015年 神奈川文化賞を受賞

主な著書「養老孟司の“逆さメガネ”」「本質を見抜く力」「環境を知るとはということか」(PHP研究所)、「バカの壁」「養老訓」「かけがえのないもの」「『自分』の壁」(新潮社)、「ヒトの見方」「考える人」(筑摩書房)、「こまった人」「まともな人」(中央公論社)、「脳と自然と日本」(白日社)、「いちばん大事なことー養老教授の環境論」(集英社)、「虫捕る子だけが生き残る」(小学館)

記念講演

「地球といのちのためにー自然(JI-NEN)とONSEN」10月15日(土) 14:45



野中 ともよ
のなか ともよ
特定非営利活動法人
ガイア・イニシアティブ代表

NHK「海外ウィークリー」「サンデースポーツスペシャル」等、テレビ東京「ワールド・ビジネス・サテライト」等、数々の番組でメインキャスターを務めた後、日興フィナンシャル・インテリジェンス理事長、アサヒビール、住友商事、三井不動産、三洋電機ほか数社で社外取締役として経営に関わる。2005年～2007年三洋電機代表取締役会長。また、1990年代より政府審議会委員を歴任。財政制度審議会、法制審議会、中央教育審議会ほか多数。現在は、2007年8月に立ちあげたNPO法人ガイア・イニシアティブ代表として地球環境・エネルギー問題と地域活性化に取り組む。East West Center(ハワイ大学)客員教授。“Club of Rome”(ローマクラブ)公式メンバー。国境なき医師団フィナンソロピック・アドバイザー、「科学技術イノベーション政策研究の方向性に関する有識者懇談会」/文部科学省 委員。

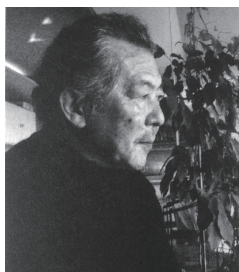
主な著書 『手ごたえのある女の人生が始まる本』(三笠書房)2005年
『心をつなぐ生き方』(サンマーク出版)2004年 『ガンバレ、自分!』(三笠書房)1996年
『私たち「地球人」』(集英社)1992年

ファシリテーション

第一部 日本温泉首長サミット会議「市民の元気とふるさと創生」 10月14日(金) 15:00

地域活性化フォーラム「温泉地活性化と中間山村の再生」 10月15日(土) 13:30

ワークショップ「地域連携による温泉地活性化への取り組み」 10月16日(日) 9:00



合田 純人
こうだ すみと
特定非営利活動法人
健康と温泉フォーラム
常任理事

1949年、香川県生まれ。1986年、健康と温泉フォーラムの設立メンバーとして又、世界保健機関(WHO)と公式関係を持つ国際温泉気候連合のアジア・太平洋協議会(FAPAC)の事務局長として、国内のみならずアジア・太平洋地区の温泉の社会的利用と保健利用の啓蒙・普及に永年携わった。海外各地での豊富な経験を活かし、イラン政府やペルー政府などの温泉調査・研究、温泉開発プロジェクトに関わり、健康と温泉のグローバル化を進めている。国内では、自治体や団体のアドバイザー・委員を歴任。専門は健康社会学。

主な著書 「新・湯治のすすめ」「放射能泉の安全に関するガイドブック」「日本の名湯百選」「温泉からの思考」「温泉実務必携」(共著)他

日本温泉首長サミット会議



白倉 政司

山梨県 北杜市長

しらくら まさし

昭和22年9月12日、北杜市高根町生まれ。日本大学経済学部卒業。

国際興業㈱、代議士秘書を経て、昭和54年に県議会議員に初当選、以来7期連続当選。

平成16年7月に高根町長、同年

11月に北杜市の初代市長に就任。

1 北杜市の歩み

北杜市は、山梨県の北西部に位置し、日本百名山のみずがきやま瑞牆山やハケ岳、南アルプスの甲斐駒ヶ岳、そして南には富士山と日本を代表する山岳景観に囲まれ、国蝶オオムラサキの生息数日本一、3ヶ所の名水百選を抱え、ミネラルウォーター生産量、日照時間も日本一を誇るまさに「山・紫・水・明」の地です。

平成16年11月、「新しい時代の新しいふるさとを創ろう」と誕生した北杜市は、「人と自然と文化が躍動する環境創造都市」の実現に向け、常にチャレンジ精神と改革意識を持ち、「ベンチャー自治体北杜市」としてその礎を築き、力みなぎるふるさとを創るため、市民と共に邁進してまいりました。「ふるさとづくりは人づくり」と「原っぱ教育」を提唱し、「不屈の精神と大志を持った人材」を理念に、「夢を持ち、未来を切り拓く心身ともにたくましい北杜っ子」の育成に努めてまいりました。また、介護保険料は、高齢化率が35パーセントと高くても基準月額4千円と県内では最も低く、これは、元気老人が多く、健康長寿であるということだと考えております。少子化による人口減少も大きな課題であることから、保育料の第2子以降完全無料化や子育て支援住宅、子育て世代マイホーム補助金といった子育て支援策など、移住定住へ積極的に取り組んでまいりました。さらに、就労の場の確保を図るため、9社のベンチャー企業等や24社の企業型農業生産法人を誘致するとともに、集落営農組織の育成により17の農事組合法人が設立され、本市の産業を牽引しております。

2 ふるさと創生に向けて

こうしたなかで、首都圏から移住してみたい県として、山梨県が最上位を争う中、本市への移住希望者は圧倒的に多く、また、昼間人口が夜間人口より多いなど存在感ある自治体、注目される北杜市となってきたように感じています。この機をとらえ、本市の魅力を高め、定住人口の確保を図るなど、地方創生を強化しているところで

す。まずは、長い日照時間や清らかな水など豊かな自然と中山間地域の標高差を活かした取り組みです。北杜市では、おいしいお米や高原野菜など実に多様な農畜産物を生産しており、毎日の食を安心して口にすることができる市民が健やかに暮らしていることを踏まえ、農業者や加工業者、観光事業者などが連携して日本の皆さんに安全で安心な食を届けることによって、担い手の所得向上や新たな産業創出を目指す「北の杜フードバレー・プロジェクト」に

取り組みます。また、南アルプスユネスコエコパークに代表される豊かな自然環境を最大の資源ととらえ、美しい山々や清らかな水といった自然環境が、人々を心身ともに健康にするといった価値と魅力を国内外に広めながら、地域そのもののブランド化と活性化を図る「世界に誇る『水の山』」プロジェクトに取り組んでいます。

3 地域の恵みで市民に元気を

増富地区においては、国の地方創生推進交付金を活用し、ラジウム温泉や自然環境、パワースポット、里山文化を活用した「健康」「交流」「癒し」の事業に取り組むこととしました。新たな分野での若者の雇用を創出するとともに、高齢者が健康で活動的な生活を送ることが可能となる環境整備を実現し、若者世代の転出超過の解決と、急速な高齢化への備え等を図ることを目指し、主に女性向けの取組メニューの開発や温泉利用による健康増進プログラムの確立に向けた市民モニター調査の実施等に取り組んでいます。

「増富ラジウム温泉峡」は、秩父多摩甲斐国立公園の瑞牆山と金峰山の麓にあって、信玄公の隠し湯として450年の歴史を誇り、全国有数のラジウム含有量を持つことから、古くから湯治客に親しまれてきました。現在では、温泉療法だけでなく、食事療養、運動療養、自然療養と組み合わせた「総合的な療養プログラム」を提供できる「健康づくりの郷」構想を掲げ、新しい温泉地づくりを進めています。そして、温泉峡には、美しい山岳景観や自然林を縫うように流れる溪谷、懐かしさが漂う里山の暮らしが残り、新たな都市・農村の交流の場として評価を得つつあります。

人口減少と少子高齢化が進む北杜市においては、増富地区のような温泉や空間等地域特有の資源を活かして、例えば、病気予防・介護予防・認知症予防を軸とした健康増進手法を産業化し、小さな集落にも人が集まり元気になれる仕組みをつくることで過疎化の歯止めになるのではないかと期待しているものでもあります。

4 むすびに

このたびの本フォーラムにおいては、全国各地の幅広い知見が集まることから、各地域の市民の元気とふるさとの創生につながるものと期待しています。そして、その開催にあたっては、多大なるご尽力を賜りましたラジウム・ラドン温泉広域連携温泉地関係者、日本の名湯百選関係者、国、山梨県等みなさまの“ふるさとの発展・活性化”を祈念するとともに、厚く御礼を申し上げ、ご挨拶いたします。



日本温泉首長サミット会議



門脇 光浩

秋田県 仙北市長

かどわき みつひろ

昭和35年 7月26日生
昭和56年 4月 西木村役場吏員
平成15年 5月 秋田県議会議員
平成21年10月 仙北市長

昨年11月、本市でも開催をいただいた健康と温泉フォーラムのタスキがつながり、今年は山梨県北杜市において盛大に開催されますこと、心よりお祝い申し上げます。

1. 仙北市の概要

仙北市は、秋田県屈指の観光地で、東京から秋田新幹線だと2時間台で到着します。春はミズバショウ・カタクリ・サクラなどが有名で、夏は瑠璃色の田沢湖、高山植物の美しさに花の山と呼ばれる秋田駒ヶ岳、秋は抱返り溪谷の紅葉、冬はたざわ湖スキー場を中心としたウィンタースポーツと、四季それぞれに賑わいます。角館の武家屋敷に代表される伝統的建造物の数々、また玉川・乳頭・田沢湖高原・水沢の温泉郷は常に全国上位の人気を誇り、角館のお祭りや紙風船上げ、火振りかまくらなどの民俗行事も多彩です。まじめな農家が育てた農産物、山菜を原料とした伝統的郷土料理の数々、全国ブランドの秋田美人に秋田清酒…。これらを求め、年間600万人前後のお客様が仙北市を訪ねてくれます。一方で秋田県は全国トップの人口減少率で、仙北市も人口減少に歯止めがかからない上に、少子高齢化率も高い現状です。

2. 地方創生・近未来特区としての取り組み

このような中、積み上がった課題解決を図るため、第2次国家戦略特区へ提案し、平成27年8月28日付けで地方創生特区の指定をいただきました。仙北市は「地方創生・近未来特区」という名称で、下記3項目を重点的に取り組んでいます。

(1) ヘルス케어ツーリズムの推進

仙北市は温泉が豊富で、国内最多9種類の泉質に恵まれ、60ヶ所余りの温泉施設と、1日約7,000人の宿泊キャパシティがあります。このうち玉川温泉はpH1.2の強酸性で、毎分9,000リットルの湧出量を誇る温泉です。日本で唯一となる特別天然記念物「北投石」が存在することでも知られ、その効能を頼って全国から多くの方々が湯治に訪れます。この北投石は、世界でもう1箇所、台湾台北市にある北投温泉に存在します。世界に2箇所しかない北投石のご縁で、平成23年8月には玉川温泉と北投温泉が姉妹温泉を締結し、今も活発に交流が続いています。その玉川温泉ですが、治療が難しい病気に効果があるという評判を聞きつけ、国内外から多くの湯治客が訪れます。この優れた泉質や岩盤浴などを、さらに高度利用したいと考案したのが、ヘルス케어ツーリズムです。これは市民の健康増進に向けた、温泉活用と病院連携の新たな提案です。また台湾やタイなど外国からのお客様も多いことから、外国の皆様も安心して湯治ができるよう、外国人医師の診療行為の規制緩和も認めてもらいました。国は温泉利用型健康増進施設の要件緩和に踏み切りましたが、温泉療養を医療保険適用とすることができないか、その実証を市民や国内外の観光客、温泉療養の知見の高い世界の医師と進めたいと思います。

(2) 国有林野の民間開放の拡大

約1,000平方キロの市域のうち、国有林野が約600平方キロを占めています。この国有林野を民間の経済活動に活用するため、様々な取り組みを行っています。まず貸付限度面積が5haだったものを、倍の10haまでの利用が可能に

なりました。この規制緩和で、有限会社グランビア（東京都）が豚などの家畜の放牧や生ハムの生産、山菜の林間加工所、森林で味わう森のレストランの開設などを盛り込んだ事業計画を作成し、国から認定を受けています。さらに地域の小規模な事業者が、林業を新たに始めやすくするため、国有林野の包括的な民間委託を前提に一定面積の国有林野を長期的に貸付けたら、森林の管理をしながら林業経営を同時に行う自伐型林業の実現など、目の前の山々が市民にとって財産となるよう、規制改革を提案していくことにしています。

(3) 国有林野を活用した自動飛行（ドローン）の技術実証

仙北市は遠隔医療・遠隔教育・自動飛行（ドローン）、自動走行（自動車）など近未来技術の実証プロジェクトを行う「近未来技術実証特区」に指定されています。中でもドローンは「仙北市ドローン・バレー」を構想しています。広大な国有林野等を活用し多様な実証を可能とするエリアを確保することで、開発研究者の招へい、研究機関並びに製造開発拠点の誘致、市内事業者のドローン関連産業への参入など、最先端産業の集積地を目指しています。

今年の7月には、市内ホテルのゴルフ場を会場に「ドローン・インパクトチャレンジ・アジアカップ2016」を開催しました。日本を含むアジア8ヶ国から一流プレーヤー70名が参加し、多彩な催しで1,700人を魅了しました。

また特区メニューの「農業生産法人の要件緩和」を活用し、ハーブなどの高機能農産物の生産・加工を行う農業法人として、株式会社メディカルファーム仙北が立ち上がりました。これまで農業生産法人の設立では、年間60日以上農作業に従事する役員が全役員の4分の1を超えなければいけませんでした。特区では役員1人以上の従事で良いことになっています。

また特区メニューの「シルバー人材センターの特例」で、高齢者の労働環境の改善向上を目指しています。これまでシルバー人材センターによる一般労働派遣は週20時間までの制限がありましたが、特区では週40時間まで派遣労働が可能になります。1次産業の就業者不足に対応するため、農業分野に限って派遣労働を増やしていきたいと考えています。

3. 終わりに

現在、旅行業法や労働法の規制緩和について国と協議をしています。特に旅行業法の規制緩和では、地元団体が旅行商品の造成や販売、代金回収も行えるようにするもので、温泉へ誘客力を格段に増加させることができると見込みます。

このように、他の地域にはできない規制緩和という手段を十分に生かし、企業の誘致や雇用の創出、誘客対策などで地域経済を活性化し、人口減少や少子高齢化をはじめとする地域の課題解決に、負けずに取り組みたいと考えています。結びに、健康と温泉フォーラム in 北杜市2016の開催にご尽力をいただいた関係各位に感謝を申し上げます。フォーラム関係者間の連携がますます深まり、温泉を核とした観光振興や福祉・医療の充実など、地域振興に大きく寄与することをご祈念します。

日本温泉首長サミット会議



田中 清善

新潟県 阿賀野市長

たなか きよよし
昭和26年7月19日生
昭和55年3月早稲田大学理工学部卒業
昭和55年4月新潟県庁入庁
平成23年3月新潟県庁退職
平成24年4月25日阿賀野市長就任

「地域資源の活用で市民の元気とふるさと創生」をテーマに、健康と温泉フォーラム2016 in 北杜市 が金峰山、瑞牆山、八ヶ岳、甲斐駒ヶ岳といった日本百名山の山並みに囲まれ、風光明媚な山梨県北杜市において開催されますことを心よりお祝い申し上げます。

1 阿賀野市の概要

本市は、新潟県の北東部に位置し、県都新潟市に隣接しています。平成16年4月に4町村が合併し、市の西側を流れる大河「阿賀野川」を由来として阿賀野市として誕生しました。東に標高千メートルほどの県立自然公園「五頭連峰」を背に、田園風景と自然豊かな景観が広がっています。

江戸時代には、幕府直轄の天領として代官所が、明治2年には越後府とし水原県が置かれ、まさに新潟県政発祥の地でもあります。

五頭連峰は弘法大師が開山したと伝えられ、信仰の山であるとともに、多様な登山ルートがあり、子供から高齢者まで気軽に登山を楽しむことができ、毎年多くの登山者で賑わっています。また、山麓一帯は全国森林浴の森百選に指定され、自然散策やハイキング、キャンプなどのアウトドア施設も整備されています。

五頭連峰の麓には、開湯1200年を誇る新潟県最古の温泉地である出湯、今板、村杉の3つの温泉地からなる五頭温泉郷が静かな佇まいをみせ、多くの方から天然ラジウム温泉を楽しんでもらっています。この五頭温泉郷は、新潟県が実施する観光地満足度調査で3回連続総合満足度第1位に輝いています。

また、本市には日本で初めて白鳥の餌付けに成功した「瓢湖」があります。

瓢湖は、ラムサール条約の登録湿地でもあり、毎年、10月になると5千羽余りの白鳥が飛来し全国有数の白鳥の湖として知られ、3月中旬まで市内の至る所で、日常風景として白鳥を間近に観察することができます。昨年11月27日には、過去最高の10,159羽が飛来し、30万人余りの観光客がおいでになりました。

本市の基幹産業は、稲作を中心とした農業となっています。阿賀野川や五頭連峰から流れ出る豊富な水と肥沃な大地で生産されるコシヒカリをはじめ、野菜や山菜、果物など環境保全型農業による安全で安心な農産物を生産しています。近年では、食用花である「エディブルフラワー」の生産も注目を集めています。また、新潟県酪農発祥の地でもあり、新鮮な生乳から製造されるヤスダヨーグルトは全国ブランドになっています。

農業以外では、米菓、地酒や地ビール、餅、味噌、醤油、豆腐、油揚げ、ハチミツなどの特産品も多数あり、「食の宝庫」でもあるとともに、古くから瓦の生産が盛んで、「いぶし銀の安田瓦」として全国に流通しています。

2 地域資源の活用

全国的な問題でもある人口減少と少子高齢化に対する特効薬がない中で、当市においても高齢化率が30%となり、3人に1人が高齢者という時代を迎えました。少子高齢化の行きつく先は、地域社会の崩壊と地域経済の破綻、さらに要介護者の増加という大きな問題を抱えることとなります。この状況にいかに関止めをかけ、定住人口を増加させるかが大きな課題であると考えます。

課題解決のためには、交流人口を増やし、市の魅力発信を行い、雇用の場の確保や住環境整備も大切なことであると考えますが、市の置かれている状況や特性、持ち得る資源を活かすことも大切なことであると考えます。

本市における地域資源のひとつに、全国有数のラジウム含有量を誇る五頭温泉郷があります。本年5月20日に全国93番目となる国民保養温泉地の指定を受けることができました。人は老いを避けることはできませんが、健康を維持することは可能です。この大地の恵みである温泉と健康をキーワードに考えた場合、安全安心な食材とのコラボや観光資源である瓢湖、五頭連峰とのコラボなど、地域が持ち得る資源の活用が可能であると考えます。

3 阿賀野市の取り組み

本市では、五頭連峰の縦走登山や国民保養温泉地周回ハイキングと温泉を組み合わせた「五頭リンピック」の開催や健康づくりに必要な「食・運動・生きがい・医療（健診）」の4要素に、「温泉」を加えた5要素による五頭自然郷ヘルス&アグリツーリズム事業を展開させ、その一環として五頭温泉郷の各旅館が腕を振り、温泉と薬膳料理をコラボさせ身体の内外から健康になる取り組みを始めました。温泉という資源をいかに活用し、健康づくりに結びつけられるか、まだまだ知恵を絞らなければならないと考えております。

4 終わりに

市民の健康づくりに、温泉を欠くことができないものと考えております。

この度、ここ増富温泉を有する北杜市で開催される本フォーラムにおいて、関係温泉地がラジウム・ラドン温泉を活用し、市民の健康づくりに役立てるとともに、それをキーワードとして地域の活性化が図られるものと期待しております。

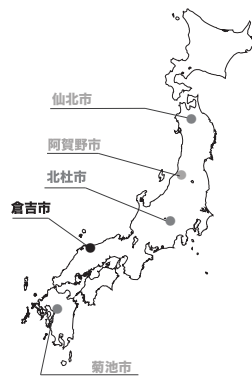
結びに、フォーラムの開催に多大な御尽力を賜りましたNPO法人健康と温泉フォーラム、山梨県北杜市並びに増富ラジウム温泉峡観光協会の関係各位に敬意を申し上げ、御挨拶といたします。





石田 耕太郎
鳥取県 倉吉市長

いしだ こうたろう
昭和 48 年 3 月 大阪市立大学法学部卒業
昭和 54 年 10 月 鳥取県職員
平成 12 年 8 月 境港管理組合事務局長
平成 14 年 4 月 福祉保健部長
平成 18 年 4 月 生活環境部長
平成 21 年 4 月 県営病院事業管理者
平成 22 年 4 月 倉吉市長



「地域資源の活用で市民の元気とふるさと創生」をテーマに、健康と温泉フォーラム in 北杜市 2016 が山梨県北杜市で開催されますことを心よりお祝い申し上げます。

倉吉市は、鳥取県中部に位置する人口約 5 万人の市です。“倉吉”の地名の由来は“暮らし良し”とも言われており、恵まれた自然環境と豊富な農産物を有し、人柄は穏やかで比較的災害も少なく、長年培われた歴史・文化・芸術が今でも生活に息づく中核都市です。

市内には国の重要伝統的建造物群保存地区として指定されている打吹玉川地区をはじめ、江戸時代末期から戦前までに建てられた家屋や土蔵が多く残り、その街並みは、往時の面影を残す懐かしい佇まいをみせています。

市の南部、中国地方の名峰大山の東山麓に位置する関金温泉は、養老年間（717 年～724 年）に鶴が怪我を癒すために入浴しているところを行基が発見し、弘法大使が再興したと伝えられています。700 年代後半に伯耆国の国庁が近郊におかれたことから、湯治場として、また、山陰と山陽をつなぐ備中街道の要所にあることから宿場町として栄えたと考えられます。お湯の見た目は、無色透明で、その美しさから「白金（しろがね）の湯」と呼ばれています。泉質は神経痛やリウマチなどによいとされる単純弱放射能泉で、湯治客や地元の方など多くの方に親しまれています。

平成 23 年に日本の名湯百選へ選定されたことを契機として、「観光分野」「健康分野」「介護分野」を連携させ、地域住民に多く利用され親しまれる温泉地を目指す「プラチナ（白金）プロジェクト」が関金温泉の取組みとしてスタートしました。

温泉を利用した健康増進を図る事業として、湯船に浸かりながら手足を動かし、全身の筋肉バランスを整える湯中運動を展開しています。「湯中運動リーダー」が指導者となり、今では自主サークルとして週 3 回教室が開催されています。温泉が健康増進に利用され、また参加者同士のコミュニケーションも生まれるなど、新たな居場所づくりにも繋がっています。また、周辺介護施設と連携し、施設入居者やその家族が食事と温泉を楽しんでいただけるようなツアーをモニターの的に実施しています。

温泉地の周辺は、過疎化・高齢化が特に進む中山間集落です。地域住民が住み慣れた地域に誇りと愛着をもって安心して住み続けることができるようにするため、関金地区の団体が、農業体験ツアーや豊かな自然を利用したグリーンツーリズム及びエコツーリズムを商品化し、都市部からの誘客に伴う中山間集落の経済活動を創出する取組みを進めています。今年度は宿泊を伴う修学旅行を受け入れ、取組みの成果が少しずつ出てきました。

このようなさまざまな取組みを連携・強化しながら、温泉地を核として、人と人との交流や生きがい、活力が見いだされていく街づくりに邁進していきたいと考えております。

開湯 1300 年を来年に控え、新たな 100 年の温泉地づくりに向けて、旅館組合、地域づくり団体、地域おこし協力隊、住民、行政が一体となった取組みの準備を進めています。そのテーマは、温泉の原点である源泉に立ち返る、「原点回帰」ならぬ「源泉回帰」。もう一度源泉に着目することによって、観光、健康、文化、地域などの様々な視点から“今”の温泉地を見直し、その価値を再確認し、関金温泉の“未来”のあり方を考えていきます。

最後になりましたが、本フォーラム開催にご尽力を賜りました開催実行委員会並びに関係者各位に敬意を申し上げ、あいさついたします。



江頭 実
熊本県 菊池市長

えがしら みほる
昭和 47 年 菊池高校卒業
昭和 51 年 九州大学経済学部卒業
昭和 51 年 富士銀行（現みずほ銀行）入社
ドイツ・ニューヨーク・ロンドン・スイスなど主に海外部門に従事
スイス富士銀行社長・ロンドン支店長を歴任
平成 21 年 ソフトバンクに入社
平成 25 年 菊池市長に当選



健康と温泉フォーラム 2016 in 北杜市開催に際しまして、一言ご挨拶を申し上げます。

まず、本年 4 月に発生しました熊本地震では、健康と温泉フォーラム事務局及び関係自治体、並びに、会場においでの皆様には大変ご心配を頂き、また御見舞いを賜り、心からお礼を申し上げます。

1. はじめに
菊池市は、人口約 5 万人。熊本県北東部、阿蘇外輪山の西端に位置し、名水・名湯といった「日本百選」が 6 つもある自然に恵まれた地域です。

古くから県内有数の農業地帯で、特に菊池米は江戸時代の米相場の基準に使われていたほどです。また、畜産業は西日本随一の規模を誇ります。

観光も重要な産業で、名湯百選の菊池温泉や奥入瀬と並び称される菊池渓谷のほか、南北朝時代の一時期、九州を平定した菊池一族の歴史のまちとしても知られています。

2. 熊本地震
今年 4 月の 2 回にわたる大きな地震で死者 1 名、全壊 72 棟、大規模半壊 83 棟、半壊 489 棟の被害を受け、現在、全力で復旧・復興に向け歩みを進めているところです。

特に、菊池渓谷はアクセス道や渓谷内の遊歩道などの崩壊で大きく傷つき、観光に大きなダメージを受けています。日本の名湯百選にも選ばれ、弱アルカリ性の「美肌の湯」として、多くの皆様に好評をいただいている「菊池温泉」は温泉への直接被害はなかったものの、発災直後の風評被害で予約のキャンセルやその後の宿泊の低迷が続き、温泉地観光として大きな痛手となったことから「ふっこう割」などに加え市独自の支援に取り組んでいるところです。

3. 「癒しの里きくち」を目指して
今日、健康や自然回帰への志向は世界的な潮流となり、人々は自然豊かな「田舎暮らし」やその風景に「癒し」を求める傾向が強まっています。

本市は 6 つの日本百選をはじめとする、水・緑・食・温泉など一級自然素材と、菊池一族をはじめとした豊かな歴史・文化など、大きな可能性を秘めた宝の山ですが、どの宝も埋もれたままの状態になっています。

私たちは、埋もれた宝を掘り起こし、磨き上げ、発信することで、交流人口の増加による経済の活性化につなげるとともに、菊池の宝を「健康」で結び固定客となる菊池ファンを増やし、安定的・永続的に発展する『癒しの里』きくちを目指しています。

そのために、菊池温泉の内発型発展が可能となるよう、NPO 法人健康と温泉フォーラムとマーケティング等の資源調査や温泉療養の医学的検証や菊池温泉の泉質調査を行い、健康長寿なまちづくりを進めています。

また、デトックス効果の高い温泉や自然などの地域資源を活用した健康サービス事業「スマート・ライフ・ステイ」を通じ、ヘルスツーリズムの本格始動へ取り組んでいます。

また、健康を機軸に農業と観光のシナジーを高めるために、その基盤づくりとして本市独自の農産物の安心・安全基準の「菊池基準」を創設し、同時に市が立ち上げたネットショップで全国に菊池を売り込む仕組みをつくりました。

ほぼ同時期に、全国に 14 市町村しかない「環境王国」に認定されたことも追い風になっています。

特に、菊池米のブランド化に取り組んだ結果、昨年の「米・食味分析鑑定コンクール国際大会」では、本市の米が九州では初の 2 部門で最高位の金賞を受賞し、究極のコメを追求する「世界最高米事業」のお米に菊池米が選ばれギネスに登録されるに至りました。

本年秋にこの国際大会が本市で開催されることになった矢先に、震災被害を受けましたが生産者はむしろこのピンチを復興につなげるべく引き続きの金賞受賞に向けて頑張っておられます。

観光では、菊池一族にかかわる歴史・文化のコンテンツ等を活用し、全国に 30 万人ともいわれている「きくち姓」のネットワークづくりを図り、潜在的な固定客（きくちファン）の獲得や交流人口の増を目指しています。

また、国内旅行者向けの誘致策として、宿泊や滞在時間の延長を促すため、本市の有する自然をフルに活用した農業体験をはじめフットパスやサイクリングを含めたグリーンツーリズムを引き続き実施していきます。

特に、都市部からのお客様に対しては、農村ならではの魅力を味わっていただくため、農家民泊を推進し、中山間地の新たな観光関連収益源を創出するとともに、都市部との交流を通じた定住化や高齢者の元気づくりにも役立てたいと考えております。

熊本地震で被害を受けた本市は、創造的復興に向け温泉や菊池渓谷などの一級の地域資源を更に磨き上げ、豊かな環境に育まれた農林畜産物を健康と言うキーワードで結び、安定的・永続的に発展する『癒しの里』きくちを目指していきます。